

# 入学者のことば

## 新潟大学歯学部に入學して

歯学科1年 郡 司 泰 佑



「東京人、都会出身、いつも遊ぶ所と言えば新宿、池袋ですがなにか？」そんな安っぽいプライドは、3ヶ月もあればキレイさっぱりどこかへ消えてしまう。それが新潟にきて学ん

だ教訓。もちろんドアの開閉がセルフサービスの越後線にはハンパなくビビったし、大好きだったampmなんてものは存在せず、ドコを見てもセーブオンだらけの五十嵐には若干の憤りを感じた。「果たして、こんな所で6年間も暮らせるのか？」そんな不安が常につきまとった4月上旬。しかし、「住めば都」とはよく言ったもので、今では何ひとつ不自由なく生活している。強いて言えば、今まで当たり前に映っていたテレビ東京がこの地では当たり前に映らないコトであろうか。

歯学科、口腔生命学科あわせて60人という小さなコミュニティ。もちろんメリットもデメリットもあるのだろうが、この歯学部の横と縦の強いつながりを見る限り断然メリットのほうが大きいんじゃないか、と感じている。歯学部だけの部活での縦のつながりはもとい、最近では横の、1年生同士の男女問わないつながりが日に日に深まっているのを強く感じる。これから6年間みんなやっていく上で、非常にいい関係を築きはじめていると思う。

そんなこんなで3ヶ月が過ぎ、この3ヶ月を振り返りながらこれを執筆している今現在。私の心はあっさりと心変わりを済ませ、今では身も心もすっかり新潟人と化した、らしい。この前、東京の友達との電話での、「オマエ少し訛ったね(笑)」という一言は、まさにそれを確信させる、新潟人

に放った一言だった。ただ、悪くない、新潟も。

最後になるが「高校時代のトモダチは一生モノ」とよく言うが、私はこれからの6年間の歯学部の友人もそれと同等、もしくはそれ以上の関係になる気がする、と信じてやまない。まだ始まったばかりだが、今後が楽しみなスタートをきった、そんな清々しい感じた。

## 新潟大学歯学部に入學して

歯学科1年 村 上 智 子



新潟大学歯学部に入學して早くも4ヶ月が経ちました。入学式の日には歯学部のみなさんと顔を合わせ、女の子の数が予想以上に多かったことにびっくりしていた4ヶ月前が懐かしく感じます。時が経つ

のは本当に早いです。新潟に来たばかりの頃は初めての土地での1人暮らしや新しい環境に不安を抱えていましたが、今では大学生活にもすっかり慣れ、毎日楽しく過ごしています。5月には歯学部運動会がありました。まだクラス全員を把握していない状態で迎えた運動会でしたが、みなさん積極的に競技に参加してとても盛り上がりました。看板も好成績を納め、充実した運動会になったと思います。

部活は硬式テニス部に入部しました。ほとんど悩むこともなく決めたのですが、テニス部に入部して本当によかったと思います。今はまだ全然技術もなく球を打ち返すだけで精一杯ですが、練習を重ねて先輩方のようにうまくなりたいです。先輩方は優しく、同級生たちは仲良く、部活の時間がいつも楽しみです。

このようにイベント、部活など楽しいことが多い大学生活ですが、やっぱりそれだけではありま

せん。大学は勉強をする場です。1年目は五十嵐キャンパスで教養科目を学びます。自分の興味があることや、将来役立つようなことを学ぶことができます。また毎週金曜日は新潟大学歯学部付属病院へ行き、早期臨床実習を行います。歯科治療の現場を見学したり、患者付き添い実習では実際に患者様に接しました。初めて病院にいらした患者様のご案内は緊張の連続でしたが、この実習を通して患者様への気配りやコミュニケーション能力の大切さなど、人を相手にする際に大事なものを学ぶことができたと思います。

歯学科のみなさんとは40人という少ない人数で6年間の長い時間をともに過します。協力しお互いの人間性を高め合いながら、それぞれの目標に向かって頑張っていきたいと思います。

## 楽しいキャンパスライフ

口腔生命福祉学科1年 滝沢 雅子



新潟大学歯学部口腔生命福祉学科に入学し、早くも半年が過ぎようとしています。

私は高校1年生の時からこの学科に入りたいと思うようになりました。私は永久歯がテトラサイクリンの変色歯でずっと悩み続けていたこともあり、歯科に興味を持っていました。幼いころからずっと定期健診にも通っていて、歯科衛生士の方と接することも多かったので、歯科に携わる仕事がしたい、歯科衛生士になりたい、と思うようになったのだと思います。なので、合格できて本当に嬉しいです。立派な歯科衛生士、社会福祉士になれるように、これから頑張っていきたいと思います。

最近はやっと大学生活に慣れてきました。最初は大学のシステムに慣れるかどうか不安でした。特にメールでの連絡通知やレポート提出には戸惑いました。しかし授業でパソコンの操作方法について習ったりするうちに、きちんと使いこなせるようになりました。

そして、私は今アイスホッケー部のマネージャーをしています。全学の部活なので、他学部の方との交流もあり、楽しく活動しています。マネージャーは初体験なので、きちんと気配りができるように日々勉強中です。学部や、部活や、バイト先などの仲間との交流の中でもたくさんのことを学んでいきたいです。

そして、来年から専門科目が本格的に始まります。自分が学びたいと思っていたことなのでとても楽しみです。将来のために気をひきしめて頑張っていこうと思います。

最後に、家族の皆、今までもこれからも私を支えてくれて本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします！

## 大学生になって

口腔生命福祉学科1年 成澤 絢香



「大学生」になって、数ヶ月が経ちました。入学当初は、慣れない土地での初めての一人暮らし、大学のシステムや授業、周りは知らない人ばかりという環境などへの不安と戸惑いの連続

でした。しかし、気の合う仲間と、とても優しく面白い先輩方に恵まれ、すぐに「大学生」の生活に慣れることができました。

歯学部に入學してみて感じたことは、歯学部の中で、学年を超えて学生同士の繋がりが広く関係が深いということでした。それは、歯学部が他の学部比べてかなり小規模であることに由来するのではないかと感じました。

私は大学に入學したら、刺激のある、充実した楽しい生活を送ろうと高い理想を描いていたのですが、実際にはそううまくはいかないものなのだと痛感しました。前期は自分の思い描いたようなキャンパスライフを送ることができなかったのですが、後期は充実させられるように、自分の短所を見直し、立てた目標をひとつひとつクリアしていけるよう頑張りたいと思います。

2年生以降はキャンパスも変わり、今よりもはるかに多くの問題や悩みが出てくると思いますが、学習面においても、生活面においても日々自分を大きく成長させて、学年が上がっても充実した学生生活を送れるよう努力していきたいと思えます。

## 大学院進学にあたり

組織再建口腔外科学分野 長谷川 真 弓



私は、今年の4月より新潟大学医歯学総合研究科組織再建口腔外科学分野に進学しました。入学から早3ヶ月余りが経とうとしていますが、ご指導して下さる先生方を始め、病院ス

タッフの方々、かけがえのない患者様等、多くの方々に支えられ、充実した毎日を送っています。

正直なところを申し上げますが、私は以前から大学院進学を決めていたわけではなく、大いに悩んだ末の決断でした。昨年1年間は新潟大学で研修医としてお世話になり、前期は協力型施設の一般開業歯科で、後期は口腔再建外科で研修させて頂きました。私にとってはどちらも興味深い仕事でした。進路は、昨年秋頃より、深く考えるようになりました。就職すべきか、大学院に進学すべきか…。結論の出ない日々が続きました。先生方より多くのアドバイスを頂き、今自分の一番やりたいことをみつめて、最後に出した結論は大学院進学でした。

現在は、歯科麻酔科で研修中です。毎日緊張の連続ですが、全身麻酔をかける(=手術時の患者様の命を預かる)という大変貴重な経験をさせて頂いております。8月からは口腔外科の病棟、12月から外来を担当する予定です。病棟は、患者様と会話をすることが大好きな私には幸せな場所です。患者様に早く元気になってもらえるようお話ししながら、逆に私の方が元気を頂くことも多いです。患者様が元気になられて退院して下さることが何より嬉しいことです。臨床の現場では、患

者様との「出会い」を大切にしていきたいと思っています。2年目以降は研究中心になります。研究テーマに対して、目的意識を持って取り組んでいきたいと考えています。

自分の出した結論が、良かったのかどうか、まだわかりませんが、全てはこれからの頑張り次第だと思います。4年間頑張り切ることができれば、卒業時にはきっと大学院に進学してよかったとそう心から思える日を迎えられるのではないかと信じています。いつも支えてくださっている周囲の方々への感謝の気持ちを常に忘れず、今後の大学院生活が有意義なものとなるよう、頑張っていきたいと思えます。

## 大学院に進学して

歯周診断・再建学分野 前 川 知 樹



研修医必修化となった去年、私は出身である新潟大学の歯周病診療室、総合診療部にてそれぞれ半年間の研修を行いました。研修はとても充実していましたが、多くの患者様を診療するにつれて、疾病の進行が早い人、遅い人と違いがあることを不思議に思ってきました。ただそれを治療していくのではなく、その原因を考えて研究し、臨床にいかすのが大学院だと考え、本年度より歯周診断・再建学分野に進学しました。それから早くも4ヶ月が経とうとしており、そろそろ大学院生の生活に慣れてきました。

大学院に関しては元々興味があり、本学学生時代に目標としている先生に誘われていました。6年間勉強したのだからあと4年くらいさらに勉強するのもいいじゃないかという気持ちと卒業留学したいという希望があったのも進学の理由です。

大学院の生活では、臨床に研究、そして教育に忙しい日々を過ごしています。研究室には少し疑問に思ったことはいつでも指導してくれる先生がいて、基礎からやさしく教えてくれる先輩がいます。論文も初めはちんぷんかんぷんでしたが今で

は日本語のようによめるといいたいところですが……。真っ暗なところでマウスをいじったり、夜遅くなることもしばしばで、体力的につらい時もあります。そういう時は研究室のみんなで飲みに行き元気をだします。教育に関しては、今まで受け身であった講義・実習も教える立場であるということでその何倍も勉強しなければいけないと大変さを感じています。そして普段から私生活の悩

みやストレスを発散させあう同期がいて大学院生活は改めて幸せだと感じています。

大学院に行くことで、常に診療をする時にそれが作業になってはいけません。scienceの視点から考えそれにあった治療を行なっていくことが大切であることを学びました。

これから未来の偉大な scientist になるために今日も精進します。

